



秋たけなわ！紅葉狩り

朝晩と日中の気温差が大きくなってくると、赤や黄色に木々が色づき、紅葉を楽しむことができるようになってきます。よく「紅葉狩り」という言葉を使いますが、狩猟の「狩り」の字を使うのはどうして？と思いませんか？そこで今回は「紅葉狩り」について考えていきましょう。

紅葉狩りの由来

狩りとは、本来、狩猟の意味です。しかし、現代では、いちご狩りやリンゴ狩りといった、収穫という意味でも使われているという、非常に興味深い文字でもあります。狩りという意味には、「求めてとる」「見て観賞する」という意味が、古語辞典にも記載されていますので、間違いではないようです。平安時代の貴族の中には、狩猟を好まない人たちがいました。こうした人たちも、山々を彩る紅葉の美しさには、目を見張っていたようです。当時は、これらの木々を見ようとすると、山や川に行かなければなりません。貴族が歩くのは狩りの場だけとされ、それ以外で歩くことは下品であると思われていました。こうした当時の風評から、紅葉を狩るといった言葉で体裁を繕ったのが始まりとされています。また実際にキレイな葉を手にとってみたり、自宅に持ち帰って観賞したりしたようで、「求めてとる」に値したのではないのでしょうか。

また、平安時代を表現した能や歌舞伎には「紅葉狩り」というお題目のものがあります。源経基の側室だった紅葉(くれは)が、正妻に呪いをかけ



たとして京から追放されました。しかし、京に戻りたかった紅葉は村を襲い、鬼女として恐れられます。それを見かねた朝廷が、紅葉を討ち取ることを指示し、これが「紅葉狩り」の語源になったというちょっと怖い伝説もあります。

紅葉狩り、行楽として定着したのは？

紅葉狩りが庶民に定着したのは、江戸時代中期といわれています。善光寺や伊勢神宮にお参りするといった、遠出が定着したことが大きな要因です。この旅行の火付け役ともなったガイドブックがあったようで、見どころなどが掲載されていたため秋になると人が押し寄せたと伝わっています。戦国時代が終わりを告げ、平和な時代になったからこそ、山々の木々を愛で、美味しものを食べたり、酒を酌み交わしたりといったイベントとして定着したのでしょう。今では様々なツアーも生まれ、一年に一度訪れる見事な紅葉を楽しみにしている方も多く、タテに長い日本では時間差で絶景を見ることが出来ます。

コンクス・STAFF

今月のつ・ぶ・や・き

群馬県では先月からGOTOキャンペーンが再開しましたね。以前は、遠くへ旅行に行くことが趣味でしたが、コロナ禍で地元巡りをするようになってからは、新しいお店を開拓することにはまっています。最近のお気に入り、お昼時しか営業していないからあげ定食店です。地元の魅力をより知る良い機会となっています。

コーディネーター 加藤夏実



スタッフブログ
更新中



コンクスLINE公式
お友達登録
お待ちしております

